

授業科目名	小児看護学実習	担当講師	徳田 薫
対象学生	3年次	単位及び時間数	2単位 90時間

**【実習目的】**

成長・発達段階にある子どもを理解し、あらゆる健康レベルにある子どもとその家族に対して適切な看護を実践する基礎的能力を養う

**【実習目標】**

1. 子どもの各成長・発達段階の特徴を理解し、対象に応じた日常生活援助ができる
2. 健康障害や入院が子どもとその家族に及ぼす影響を踏まえて、必要な援助を実践することができる
3. 子どもの安全を守るための看護について学ぶことができる

**[保育園実習]**

1. 乳児期・幼児期の子どもと関わり、健康な子どもの成長・発達を理解する
2. 子どもの成長・発達段階に応じた日常生活援助ができる

**[病院実習]**

1. 子どもの各成長・発達段階の特徴を理解し、対象に応じた日常生活援助ができる
2. 健康障害や入院が子どもとその家族に及ぼす影響を踏まえて、必要な援助を実践することができる
3. 子どもの安全を守るための看護について学ぶことができる

授業科目名	母性看護学実習	担当講師	井手窪 澄子
対象学生	3年次	単位及び時間数	2単位 90時間

**【実習目的】**

1. 周産期（妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期）にある対象の特性を理解し、母性看護に必要な基礎的実践能力を養う
2. 生命誕生の過程に参加し、生命の尊厳への認識を深めることができる

**【実習目標】**

1. 妊娠期の対象の特性を理解し、妊娠経過のアセスメントと必要な看護を考えることができる
2. 分娩期の対象の特性と分娩経過に合わせて必要な看護を考えることができる
3. 産褥期および新生児期の特性と健康増進に向けて必要な援助を実践することができる
4. 生命誕生の過程に参加し、生命の尊厳への認識を深めることができる

授業科目名	精神看護学実習	担当講師	東浦 龍至 ほか
対象学生	3年次	単位及び時間数	2単位 90時間

**【実習目的】**

精神に障害のある対象および家族を理解し、個別的な看護が実践できる基礎的能力と対象を尊重する態度を養う

**【実習目標】**

1. 精神に障害をもつ対象を理解することができる
2. 対象のセルフケア能力に応じた日常生活行動への援助を計画・実施・評価できる
3. 治療的な関わりを意識し、患者—看護師関係を形成できる
4. 対象への関わりを通して、自己の感情や行動の傾向に気づき、自己洞察できる

授業科目名	看護管理	担当講師名	田原 しのぶ 渡邊 美津江
開講時期	3年次	単位及び時間数	1単位 15時間
授業の目標 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護管理について基礎的な理解を深め、医療チーム及び多職種との連携ができる</li> <li>・看護実践におけるマネジメントについて考えることができる</li> <li>・良質な医療及び看護について追求する姿勢を育てる</li> </ul>		
回	授業内容	キーワード	備考
1	第1章 看護とマネジメント A 看護管理学とは ○看護サービスのマネジメント	看護マネジメントの変遷	講義
2	第2章 看護ケアのマネジメント A看護ケアのマネジメントのプロセス B患者の権利の尊重	ナイチンゲール インフォームドコンセント、 意思決定の支援	
3	C安全管理 ○医療事故対策 Dチーム医療 ○多職種との連携・協働	安全管理のシステム、安全文化 院内感染対策、災害の予防と対策 コミュニケーション	講義・ 課題 レポート
4	E看護業務の実際(日常業務のマネジメント)	看護業務、看護基準と看護手順、 クリニカルパス、情報の活用	※渡邊 看護部長
5	第3章 看護職のキャリアマネジメント Aキャリア形成	キャリアラダー、新人看護職員研修 ストレスマネジメント	講義・課題 レポート
6	第4章 看護サービスのマネジメント ○看護ケアの提供システム ○人材マネジメント ○人材フローのマネジメント 労働環境 ○施設・設備環境、物品、情報	組織化、看護単位、看護方式 キャリアディペロップメント、プリセプター、 インフロー、内部フロー 労働安全衛生、賃金、安全性の確保、快適性の確保、 機能性の確保	※渡邊 看護部長
5	○組織におけるリスクマネジメント ○サービスの評価	事業継続計画（BCP）守秘義務、プライバシー、 質の評価クリニカルインディケータ ー、病院機能評価	
7	第5章 マネジメントに必要な知識と技術 B組織とマネジメント Cリーダーシップとマネジメント D組織の調整	組織構造、PDCA サイクル 特性理論、行動理論、条件適合理論 集団規範、動機づけ、エンパワーメント	講義 GW
8	第6章 看護を取り巻く諸制度 B看護職の定義 ○看護師の法的責任 ○看護職の職業倫理○看護職の教育制度 C医療制度	保助看法 看護師の人材確保の促進 看護基礎教育課程 認定・専門看護師・特定 行為医療法、	講義
評価方法	筆記試験 レポート		
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 看護管理 (医学書院)		

授業科目名	看護研究	担当講師名	木村 一美
開講時期	3年次	単位及び時間数	1 単位 15 時間
授業の目標 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの看護実践を看護理論や研究成果と照合し、自己の看護観を明確にする。</li> <li>・事例研究の過程やその結果を通して、看護職者としてエビデンスに基づく実践を取り入れ、研究力を身につけることができる。</li> </ul>		
回	授業内容	キーワード	備考
1	看護研究の基礎・実践 ケースレポートの進め方	リサーチクエスチョン・ 文献レビュー	2 年次前期 看護学概論 II とつなげる
2		大理論・中範囲理論・実践理論 倫理的配慮・研究計画書 ケースレポート	
3	事例研究発表	1) 実践に基づいたエビデンスに 基づく看護実践の検証 2) 看護理論や研究論文などの文 献検索 3) 事例研究レポートの作成 ※別紙「看護研究要綱」を参照	
4			
5			
6			
7			
8			
評価方法	事例研究レポート (取り組み姿勢・事例研究レポート内容・発表姿勢など) ※別紙の評価表を参照		
教科書	看護理論 看護理論 20 の理解と実践への応用 (南江堂) 系統看護学講座 別巻 看護研究 (医学書院)		

授業科目名	災害看護	担当講師名	藪本 初音
開講時期	3年次	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害医療・災害看護に関する基礎的知識・技術を修得できる</li> <li>・災害における看護の役割について理解し、命の大切さと人々の生活を考えることができる</li> </ul>		
回	授業内容	キーワード	備考
1	災害医療の基礎知識	クラッシュシンдрローム	講義 GW DVD
2	災害の特徴	エコノミークラス症候群、	
	災害の種類と特徴	感染制御、トリアージ、災害拠点病	
	被災地の実際	院、	
	「石巻災害医療の全記録」から学ぶ	広域災害救急医療情報システム、DMAT	
3	災害と法制度		
4	災害と情報	災害対策基本法、災害救助法	
5	災害サイクルに応じた活動現場別災害看護	避難所医療、仮設住宅、	
6	被災者特性に応じた災害看護の展開	子ども、妊産婦、高齢者等	
7	地震災害看護の展開		演習
8	応急処置 関節固定と搬送法	包帯法、搬送法、止血法	
9	災害とこころのケア	トラウマ、PTSD、グリーフケア	講義 GW
11	人と防災未来センター見学	施設見学	施設 見学
13	国際化と看護		講義 DVD
14	グローバルヘルス 多様な文化と看護	JICA、ODA SDGs	
15	筆記試験 三角巾実技試験		
評価方法	筆記試験 レポート		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 「災害看護学・国際看護学」看護の統合と実践③ 医学書院</li> <li>・石巻災害医療の全記録「最大被災地を医療崩壊から救った医師の7ヶ月間」 著者；石井 正，講談社</li> </ul>		

授業科目名	看護の統合と実践	担当講師名	徳田 薫
開講時期	3年次	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療における事故防止のための知識・技術を取得し、安全な看護を提供するための判断力・実践力を高めることができる</li> <li>・看護に関する修得した内容をより臨床実践に近い形で学習し、臨床に適応できるように知識と技術の統合を図り、看護の実践者として患者の看護を総合的に判断や対応できる能力を養う</li> </ul>		
回	授業内容	キーワード	備考
1	統合と実践の考え方	ビジョン・ゴール設定 医療従事者とのコミュニケーション、情報の共有化、チームマネジメント、	講義及び演習  アクションシート
2	医療安全について	KYT 演習課題	
3	多重課題への対処①	テクニカルスキル、ノンテクニカルスキル チーム医療	
4	多重課題への対処②	演習課題	
5			
6	複数の患者への看護実践	複数患者の行動計画 優先度を判断した立案（ケアの優先度、順序性、時間管理）	
7	複数の患者への看護実践①	シミュレーション学習 事前課題、ブリーフィング シミュレーション、デブリーフィング	
8			
9	複数の患者への看護実践②	突発的な事象への対応とリフレクション	
10			
11	まとめ発表の準備	これまで学習したことを踏まえて、看護のポイントを整理し学びを深める。シナリオの作成	
12			
13	まとめ発表	作成したシナリオに基づき発表を行う	
14			
15	発表後の振り返り	発表を終えての評価、レポート	
評価方法	“演習課題 20点・レポート 35点 アクションシート 3点×10回=30点・授業態度 15点”		
教科書	新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全（メヂカルフレンド社） 医療安全ワークブック（医学書院）		

授業科目名	在宅看護論実習	担当講師	辻野 美嘉
対象学生	3年次	単位及び時間数	2単位 90時間

**【実習目的】**

1. 地域で生活する対象を理解し、在宅療養を支援するために必要な基礎的能力を養う
2. 地域における保健医療福祉活動の実際を知り、関係機関、関連職種との連携と協働を通して看護職の役割を学ぶ

**【実習目標】**

1. 療養者の療養生活の実際と療養者の全体像を把握し、療養生活を支援するために必要な看護を  
考えることができる
2. 訪問看護の特性と訪問看護師の役割を説明できる
3. 在宅ケアにおける看護職の位置づけとその役割を考察することができる



授業科目名	統合実習	担当講師	徳田 薫 ほか
対象学生	3年次後期	単位及び時間数	2単位 90時間

**【実習目的】**

1. 既習の知識・技術・態度を統合し、複数の対象に対して倫理的判断に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う
2. 看護における組織と管理の実際を学ぶ

**【実習目標】**

1. 看護管理の実際が理解できる
2. 医療チームの一員としての看護師の役割が理解できる
3. 複数の患者を受け持ち、優先度・時間管理・安全を考慮し看護師の指導のもと援助が実施できる
4. 患者の24時間の療養生活を支える看護の実際について理解できる
5. 統合実習をとおして、看護専門職者としての自己の目標を明確にすることができる